

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	177600293		
法人名	有限会社 ひなた		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	〒061-3202 石狩市花川南2条6丁目118番地 (電話) 0133-74-9646		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年11月15日

【情報提供票より】 (平成19年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 7,2人	

(2) 建物概要

建物構造	一部鉄筋コンクリート造 造り		
	3 階建ての	2 ~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (9月27日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82.8 歳	最低 63 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科・ふれあいクリニック・花川病院・ドゥケア歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、運営者・管理者の居住地域でのホーム設立であり、町内会をはじめ地域住民とは馴染みがある。町内会や運営推進会議での理解・協力を得て地域密着型サービスに取り組んでいる。町内会に「グループホームひなた便り」を回覧し、ホームでの日々の生活の様子・認知症のわかり易い解説記事をシリーズで載せる等、地域との連携が出来ている。ターミナルケアへの取り組みには積極的である。職員全体のコミュニケーションが良く、利用者も含めてホーム全体が明るく・楽しそうな雰囲気が伺えた。利用者本意の介護サービスが実践されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	全職員が緊急時に対応出来るように、看護師資格者の職員による社内研修や救急救命講習等を受講しておくことを望みたい。金銭報告書に確認書を同封して押印してもらっている。包丁等の危険物は鍵をかけて保管 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	全職員で個々に自己評価をして管理者によりまとめられ、さらに全職員で話し合い作成している。良質なケアサービス提供への意欲ある自己評価表となっている。評価結果を活かして改善にも取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	会議は2ヶ月毎に必ず開催し、グループホーム運営の目的や役割を話し合い理解と協力を得ている。会議メンバーの意見から石狩市の防災マップにホーム名を載せてもらえた事は、大きな成果となった。管理者は包括支援センターと連携をとりながら、キャラバンメイトとして認知症サポーター講座や学生ボランティアの受け入れ等で協力体制にある。市の担当者とは定期的報告や情報提供等で連携をはかっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	毎月「ひなた通信」を発行し、ホームの行事や生活の様子等を家族に伝えている。事業所内部と外部に苦情申し立て機関を設けている。家族と連携を密にして意見や苦情等を話してもらえるように取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会の行事である新年会・お祭り・敬老会・七夕等に利用者と共に参加して地域とは積極的に交流し、地域密着型サービスの実践に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で自分らしく生き生きと暮らし続ける為の支援のあり方を、開設時の全職員で話し合い作り上げた理念である		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月一回のミーティングや毎朝の申し送り会議で情報を共有し、理念を踏まえた支援の実践がなされているか等を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者・管理者の居住地域でのホーム設立であり、町内会をはじめ地域住民とは馴染みがある。新年会・お祭り・敬老会・七夕・花火大会等々、利用者と共に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が自己評価を作成し、管理者によってまとめられ、さらに全職員で話し合いをして作り上げられている。評価による課題を明らかにして改善に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃より地域との交流を深め、運営推進会議においても、グループホーム運営の意義・役割への理解と協力を得るために働きかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は包括支援センターと連携をとり、キャラバンメイトとして認知症サポーター講座に参加したり、学生ボランティアの受け入れ等に協力している。市の担当者とは定期的報告や情報提供等で連携をはかっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の行事や日々の出来事・利用者の生活の様子等を、「ひなた通信」として毎月発行している。金銭の報告と共に家族へ送付しており、必要が生じた場合はその都度、個々に電話・メール・手紙等での連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内部・外部の苦情申し立て機関が明記されているが、家族の訪問は頻繁にあり、職員だけでなく家族同士も気軽に話し合える雰囲気であり、不満や苦情はほとんどない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の勤務時間や休日等に関して理解を示し良好な職場環境作りを心がけている。設立以来の離職者は1名である。利用者、馴染みの職員との安心した日々の暮らしが実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は半年毎に自己課題を作成し、管理者と共にその評価をしている。外部研修に積極的に参加しミーティング等で報告している。事業所内においても学習会を開きケアサービスの質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やキャラバンメイト活動を通じた交流がある。しかし職員同士は交流の機会がない。	○	グループホーム連絡会を作り、他事業所と連携して職員同士の交流会や研修会を開催する等の計画がある。その実践により、協働しながらケアサービスの質の向上に取り組まれることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・本人が見学された時に、一緒に食事をしてもらったり、何回か訪問してもらい十分に時間をかけて家族と相談しながら納得した上で、利用開始に到っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごしあう大切さを理解している。経験豊かな先輩として教えてもらう場面も多く、生きがいのある日々となるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴・家族の話から、本人の思いや意向の把握に努めている。本人に「して欲しいこと・して欲しくないこと」のアンケートを実施して、希望や思いを理解する取り組みをした。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当は決めているが、毎朝の申し送り会議や連絡ノートにより、気付きや状態の変化等をチームで話し合っ検討し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングにおいて、一人ひとりの介護計画の評価を行い実状に沿った見直しをしている。さらに日々の変化に応じた検討もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の外出支援・通院介助・買い物・美容院への送迎等を希望に応じて支援している。家族の宿泊は自由で、遠方の家族が訪問された場合には一週間宿泊することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは毎月二回の訪問診療の他、緊急の場合には24時間対応となっている。利用者の希望するかかりつけ医とも連携をとり支援している。又年一回は全員で定期健康診断を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明の中で重度化や終末期についての話し合いをして同意は得ているが、必要とされる事例も無く具体的な方針・マニュアルは検討中である。	○	将来的に重度化し終末期を迎える利用者を支える為に、看護師・管理者は研修会に参加している。その実現の為に家族や医療関係との話し合い、具体的な方針や支援について取り組んでいってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	全ての職員は、人生の先輩として尊敬をもって利用者に接しており、本人の誇りを傷つけることの無い支援を実践している。利用者一人ひとりのプライバシーへの配慮も見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿ったケアが実践されており、その人らしく自由に暮らしている様子が伺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとっては食事は楽しみなことである。季節感・年中行事・嗜好等を考慮した献立である。利用者は、食材の買い物や準備・後片付けを職員と一緒にしている。職員も共に食卓につき、食後のコーヒータイトムでは笑いの絶えない和やかで寛いだ雰囲気があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間に決まりはない。入浴の順番等にも考慮して利用者の希望に沿った支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事や興味のある事を把握して、力を発揮してもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望で、地下鉄を利用して街まで買い物に行き自分で支払ってもらったり、外食や夜の居酒屋に出かける等能力に応じて支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関ドアにベルをつけているが、鍵はかけていない。夜は防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難誘導訓練をホーム全員で行い、毎年消防署による火災訓練を実施している。運営推進会議では地域の協力を日頃よりお願いしていたが、民生委員の協力で石狩市の防災マップにホーム名を載せてもらえるようになった。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はされていないが、食事量・水分摂取量を記録し一人ひとりの特性を把握して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改築した建物であり、我が家にいるように寛いで過ごすことが出来る。手作りの壁飾りや置物があり、花を生け、家具等も家庭的で居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や仏壇・家族の写真等を持ち込み、本人の好みに合わせて花や趣味の品を飾ってその人らしく自由に過ごせる居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。